

「クルアーンとの関係を改善する」

@御徒町 masjid における 2018.3.23.金曜フタバ要約 by 杉本恭一郎

ウスマーンによると預言者いわく「あなた方の中、最善の人とは、クルアーンを学んで教える人である」(アル＝ブハーリー)。この言葉を実践しようと、ムハンマドの教友たちは、一生懸命にクルアーンを学び教えてきました。ウスマーンやアブドゥッラー・イブン・マスウードなどは、10 節を読むと、次の節の前にそれをまず実践したと言われていています。多くの場合、1 回のみの実践ではなく、生きていく間継続的に礼拝を実践し、ザカートを支払い、ラマダーン月中の断食などをするわけです。これは学ぶことと、教えることの違いを示しているとも言えます。つまり教えるには、理解し実践していることが前提にあるわけです。

「確かにわれら (アッラー) は、クルアーンを覚えやすくした。誰か思い出す人はいるか」(54 章 17 節) とあるように、アッラーはクルアーンを人間が読誦する、暗記することを容易にしました。例えばアラビア語がわからない人でも、クルアーンを全暗記する人たちがいます。でも全体を理解することは別物です。なぜなら「われらがあなたに啓示した啓典は、祝福に満ち、その印を熟考するためのものであり、また留意する人たちへの戒めである」(38 章 29 節) からです。留意する人、よく考える人は教訓を得る、つまり理解するわけで、そこには「考える」「実践する」努力が必要だからです。例えばクルアーン学者は 5000 ページにも及ぶクルアーン解釈本を 30 年もかけて書き上げます。クルアーン全体を理解するのに 30 年かかる。しかもその理解は、必ずしも実践をしたものではありません。だから学者もクルアーンの意味がどれだけ深いかわからないと言います。もしあなたがクルアーンを知っている気になっているなら、それはある学者の理解を知っているにすぎないのです。

アラビア語を話さないムスリムにも、できることがあります。それはクルアーンに何が書かれてあるかその翻訳を認知することです。認知とは、例えば初対面の人、今 masjid で隣に座っている人と知り合いになることです。挨拶をして、名前、どこに住んでいる、どんな仕事しているなど表面的なことを知ることはできます。でもその人を本当に理解するまでには至りません。これは知り合いになる程度です。これが認知です。そして認知を何度も繰り返すと、友達になります。さらに繰り返すと親友になるのです。ここまでくると相手をかなり理解するレベルに達するわけです。では何をしてきたのかといえば、認知を繰り返しただけです。夫婦関係も同じです。15 年、20 年一緒に暮らして、まだどこまで深く理解したのかわからないけれど、認知を繰り返してきたおかげで、親密になっているわけです。

クルアーンの場合では、こんな言葉が全体的に書かれてあるということを視覚的に感じ取ることを認知と言います。初めはクルアーンと知り合いになること、何度も読むことで友人となり、さらに読んでクルアーンと親友になることが理解することです。何をするのかといえば、繰り返し読むだけです。書かれてあることを視覚的に、または聴覚的に (クルアーンは読誦されるもので本来口伝だから) 認知することです。ポイントとしては、細かく頑張って読もうとすると挫折する原因になるので、ひたすらサラサラ読みを繰り返すことがオススメです。ただしアラビア語のない翻訳だけでも約 400~500 ページあります。ある人は、本を全く読まず 400~500 ページを読むと聞いただけで、諦めてしまうかもしれません。

では、どうするのか？読む理由を持てばいいわけです。明確な理由があればあるほど読む動機付けが強くなります。来世への投資と考えてもいいです。また 2 ヶ月後にラマダーン月になり、タラウィー礼拝があります。この「タラウィー礼拝でいかに集中できるか」という動機があると思います。ラマダーンまで約 7 週間あるので、例えば、1 回クルアーン翻訳全部のサラサラ読みを終えるようにします。毎日ファジュル礼拝の後、約 10 ページ、翻訳 1 ページ 2 分で毎日 20 分使うだけです。通勤時間にできるものです。今はスマホもあるので、どこでもクルアーンの意味を読んで聴くことができます。読むことに慣れている人は、10 分もあれば実践できるのです。インシャッラー。